

1 審議会要旨

- (1) 開催日時 令和8年(2026年)7月14日(火)
午前11時00分から午前12時00分まで
- (2) 開催場所 宝塚市役所 第二庁舎 会議室B
- (3) 出席委員等

本日の出席委員は、8人中6人で、次のとおり。

ア 委員(会議室参集)

大平委員、澤委員、高木委員、田中委員、山根委員、北村委員
(宝塚市景観審議会デザイン協議部会の設置及び運営に関する規程第3条
第2項により出席を求める者(景観審議会委員 飯畑委員、前田委員))

イ 事業者、設計者

(ア) 議事1 事業者 公益財団法人 東洋食品研究所
設計者 株式会社竹中工務店

宝塚市景観審議会デザイン協議部会の設置及び運営に関する規程第5条及び、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により、定足数である委員の2分の1以上の出席があったので、会議は成立した。

宝塚市景観審議会の運営に関する規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事に係る会議は公開であることを確認した。

(4) 会議の内容

ア 会長は、議事録署名委員として、2番大平委員及び4番澤委員を指名した。

イ 次の議事について審議を行った。

議事1 東洋食品研究所高碕記念館博物館

2 会議要旨

(1) 議事1 東洋食品研究所高碕記念館博物館

会長	景観に配慮した点について、簡単にご説明をお願いします。
設計者	本計画は、高碕達之助氏の歴史や功績を、来館者が体験的に理解できる博物館を目指しています。計画にあたっては、ウィリアム・ヴォーリズ氏が設計された歴史的建造物である既存の高碕記念館との関係性を重視するとともに、周辺の閑静な住宅街の景観と調和した計画とすることを基本方針としています。 具体的には、建物は地下1階地上2階建てで、周囲への圧迫感を抑えるとともに、既存の高碕記念館からの視線の抜けにも配慮しています。また、高碕記念館の庭園は既存の姿を復元する形で保存して、歴史的景観を継承しながら、新たな文化スペースとして周辺環境との調和を図るよう配慮しています。

会 長	ありがとうございます。委員より質問、意見等、お願いいたします。
委 員	景観を考える上で、特にデザインについては、基本的にはコンセプトに基づいて、どのようなデザインがその場所に相応しいのかを検討するものだと考えています。今のご説明の中の「ヴォーリズ建築である既存の高碕記念館や周辺地域との調和を基本方針とする」というコンセプトと、実際の計画内容に相違があるように思います。建物用途としては、歴史を体験的に理解できることや地域文化の継承ということを重要視していただいている反面、景観的には、歴史・文化の継承に配慮されたデザインにはなっていないように感じます。宝塚市の景観としても非常に重要な地域として認識している雲雀丘の景観への調和という点についても、疑問を感じます。 もう少し詳しく、建物や外構のデザインコンセプトについて、ご説明をお願いしてもよいでしょうか。
設計者	外構としては、高碕記念館の植栽のイメージを崩さずに、本計画に自然にならげていきたいと考えています。具体的には、計画地の南側の既存の生垣が延長するようなかたちで、新築部分の植栽を計画しています。また、計画地東側の辺りは、色々な樹種を取り入れています。これは、高碕達之助氏が高碕記念館の庭園のコンセプトとして、色々な樹種を好んで植えられたということをお聞きして、今回計画したものです。 建物の体験的な経験ができるということに関しては、地下1階から入り口に入っていくアプローチ部分に地窓を設けています。エントランスから入ると、この窓からの光を感じながら2階の展示室へとつながるような動線にしており、窓から見えるまちの風景を体感してもらうということを考えています。
設計者	外観のイメージについて、少し補足いたします。建物は、屋根と壁が連続するような形で、金属葺きになっています。これは東洋食品の創業者である高碕達之助氏の博物館ということで、一つの容器のような、缶詰のような建物をイメージしました。また、隣接する既存の高碕記念館の屋根のイメージで、チタン亜鉛合金を選定しています。チタンの合金ですので、単純な塗装とは異なり、少しずつ経年変化をしながら、まちの落ち着いた雰囲気にならんでいくと考えています。葺き方は一文字葺きで、隣接する高碕記念館の屋根のスレート葺きに近い形を意識しています。
委 員	ありがとうございます。意図は理解できました。一方で、やはり既存の高碕記念館や地域との調和については課題として残ると思います。具体的な事項に

については、それぞれの委員から質疑などがあるかと思いますが、コンセプトをより研ぎ澄まして、本当に周囲に調和しているのか、歴史を継承するデザインになっているのかを再度検討していただく必要があるのではないのでしょうか。

委 員 外観のサンプルを拝見し、イメージコンセプトについても、今のご説明で理解できました。建物自体のデザインとしては、非常にシャープでカッコいいデザインだなと思います。

1点質問です。屋根について、図面では段差のある屋根形状として表現されていますが、パースでは屋根の傾斜は道路からは見えておらず、フラットルーフのように見えます。見え方としてはどのようなのでしょうか。

設計者 パースのアングルで見るとフラットルーフのようになるのですが、少し離れたり角度を変えたりすると、傾斜の屋根が見えるところもあります。特に既存の高碕記念館から見ると、ちょうど見下ろすような形で、屋根の傾斜がよく分かると思います。

委 員 気になる点が4点あります。

1点目、屋根形状についてです。既存の高碕記念館の方から見ると、おそらく見下ろしになるので屋根形状も分かるかと思うのですが、景観を考えるとときには、通り景観が非常に重要です。この地域は、景観重要建造物などもあり、基本的には勾配屋根の戸建住宅地の通り景観です。今回の計画建物が四角い箱のようなイメージになるのは、まちなみの連続性としてみると違和感があり、主張が強すぎると思います。

2点目、屋根材、壁材の選定についてです。既存の高碕記念館の天然スレート屋根の色彩との連続性、同一性は理解できたのですが、ただ、高碕記念館の壁の部分は、リシン吹き付けのドイツ壁のような仕上げのアイボリーの壁で、この壁とスレートの屋根の対比が特徴だと思います。デザイン的な継承ということですが、壁全体にチタンの金属板を張るというのは、屋根だけに使うのとは印象が大きく異なりますし、非常に無機質なデザインになると思います。

3点目、屋根材、壁材の反射についてです。チタンの金属材は、あまり反射しないような感覚もありますが、やはり金属ですので、光の当たり具合によっては、反射が気になるのではないのでしょうか。

4点目、全体の印象についてです。缶詰の缶というイメージコンセプトは理解できたのですが、景観として見たときに、今回計画のボリューム感や素材がどのように周囲に調和するのかというところをお聞かせいただきたいです。

設計者	既存の高碕記念館のイメージから屋根の素材を選定し、缶詰の器というところで、こういったデザインにしています。周囲との調和というところかというと、今回計画している建物は、住宅ではなく博物館という用途であることから、少し目を引くような要素も必要ではと考え、今回の計画としています。
委員	建物のデザインとしては理解できますし、良いデザインだと思います。ただ、雲雀丘のまちなみや歴史に今回の建物が調和するのか、というところで申し上げます。 また、勾配屋根で、軒の出があるのが基本的な建物形状だという通り景観の地域で、壁と屋根が一体的に繋がっていて、軒の出がないというところも気になります。
設計者	軒の出については、床面積の確保というところが大きな要因としてあります。計画地は傾斜地で、また既存の擁壁も保全していこうという方針の中で、北側斜線などの規制を考えるとかなり厳しい敷地条件になっています。その上で、建物用途として最も重要な部分である展示スペースを確保したい、ということの解決策として、このような形状になっています。 ただ、景観上の配慮としては、小庇のような形で窓を設けることで、単なるシンプルな箱ではなく、少し影の落ちるような意匠にしています。
委員	これまでの議論を受けて、建物意匠について、検討いただきたいと考えている点が3点あります。 1点目、壁と屋根の継ぎ目が単なる折れた角になっているのが、やはり気になります。少しだけでも、軒の出のような凹凸、あるいは一本ラインをいれていただいて、影がそこに落ちてくるようなデザインにできないでしょうか。少しの凹凸でも、印象が変わってくると思いますので、検討いただきたいです。 2点目、屋根の傾斜についてです。敷地条件が厳しい等もあると思いますが、もう少し傾斜を付けて、通り景観としても、勾配屋根が認識できるようなデザインを検討していただきたいです。 3点目、色彩についてです。今回は、全体的に非常に無機質でシャープなデザインでまとめられているのはよく分かるのですが、この地域の地域性とは少し違う方向性だと感じます。有機的な柔らかさや、もう少し色味があるようなものが、雲雀丘の地域性だと思います。シャープなデザインは、建物自体としては良いと思いますが、景観上は、地域との調和が非常に大切です。今回の建物にも、もう少し有機的な柔らかさのようなものが取り入れられないかというところを、検討していただきたいです。

委員

今の意見に加えて、屋根の勾配がどこから見えるかということも非常に大事だと思います。既存の高碕記念館のアプローチ階段のあるあたりから、屋根の勾配は見えるでしょうか。このあたりから見えることが大事だと思います。敷地内だけでなく、通り景観から見て、勾配屋根だと分かるようなデザインにしたいです。ここは住宅地ですので、博物館だからといってあまり主張しすぎるのも良くないと感じます。

また、この辺りのお屋敷というのは、緑の中に見え隠れする雰囲気です、通り景観に対して建物は主張をしていません。せめて植栽を工夫していただき、見え隠れするイメージをもう少し強めていただけると、周囲にもっと調和するのではないのでしょうか。パースで拝見する雰囲気だと、緑が少ないと感じます。植栽が密になってしまうと、地窓から見せるということに支障がでるかもしれませんが、上手くバランスをとっていただければと思います。

委員

窓からの見せ方としては、やはり樹木の間に覗き見るというのが、本来の見せ方ではないでしょうか。地窓からストレートに見せるというのは、あまり良いと思いませんので、手前側に樹木を植えていくのは非常に重要なことだと思います。

また、今回計画の全体的なデザインと周辺環境との連続性について、どのように考えておられますか。今回は、杉板型枠のコンクリート打ち放し部分が道路沿いに計画されています。これは、本来この地域で多く見られる御影石の石積擁壁などとは全く違う意匠です。道路から見たときに、まずこのコンクリート打ち放し部分が大きな面積で見えて、その上に無機質な金属の外壁が出てくるような景観になります。屋根と外壁に選定されているチタンの金属材は、屋根のスレートを使うと日本の和瓦と似た感じになりますが、今回の場合は外壁にも使われていますので、手すりなどに使われる溶融亜鉛メッキと同じような印象で、無機質で強いデザインになるのではないのでしょうか。また、碎石敷きについても、冷たい印象になると思います。例えば、御影風のものが入ってくるだけでも全然イメージが違ってきますが、どのようなものを考えられていますか。壁についても、御影風のカラーを、ライン状でも良いので少しでも入れることや色彩を若干明るめに調整することなどで、周辺環境との連続性が向上するかと思います。

また、建物内部からの見え方も大事です。例えば展示室から既存の高碕記念館は見えるのでしょうか。そのあたりの連続性も大切だと思います。非常に良い場所で、良い博物館を計画されているので、この場所に相応しい計画になると良いと思っています。

	それから、バリアフリーについてです。パースを見た印象として、例えば、杖をついて入ろうと思った時に、どこから入るのだろうと思いました。ひとを迎え入れるような、ひとにやさしいエントランスになっているのでしょうか。アプローチのしやすさなどを再度見直して見ていただきたいと思います。
設計者	バリアフリーについては対応しています。エレベーターがあり、1階の受付と2階の展示室に、直接アプローチできる計画になっています。パースだと分かりにくいのですが、階段の下にかなり大きな間口で設けているので、正面に行くと分かりやすいようになっています。 アプローチ周りですが、コンクリート打ち放しが、周辺と馴染まないということかと思いますが、今回は、杉板型枠のコンクリートを採用します。杉板の表面がコンクリートに転写され、模様だけでなく杉の表面が転写されることで、若干コンクリートのグレーよりもベージュがかったような柔らかい雰囲気になると考えています。杉板の模様は、樹木との相性がとても良いので、植栽との上手く馴染むと思っています。地窓の前の植栽についても、今後詳細を詰めていく上で、参考にさせていただきます。
事業者	2階の展示室からの既存の高碕記念館の見え方については、現在設計者と協議している部分でもあります。考え方としては、パースにもあるように、地窓がずっと展示室に連続的に繋がっていくような計画にして、既存の高碕記念館もその中で見えてくるようなイメージで調整しています。
委 員	外壁の仕上げは、どのようなイメージなのでしょうか。
設計者	外壁は、高さ150mm、幅600mm程度のものを一文字葺きしますので、多少の凹凸や表情も出てくると思います。物によって多少の色の違いが出たり、経年変化で表情が変わっていったりすることを含めて、完全に無機質な金属の壁とはならないよう、この材料を選びました。
委 員	外壁の金属は面が大きいストレートな壁で、地上から目に入るのもコンクリート打ち放しであることは、この地域の文化の連続性に反しているのではないのでしょうか。金属や碎石などの無機質なものが連続するのが、地域に調和しないのではないかと思いますので、無機質でなく、有機的な要素をどこかに取り入れられないのでしょうか。
設計者	先ほどご助言いただいた碎石について御影風の石を使ったらどうかといっ

た点などは、取り入れていけるかと思います。

またコンクリート打ち放しについても、いわゆるグレーではなく、表面に塗る撥水剤、コーティング剤に少し色を加えて柔らかい表情にしていくなどの工夫はしていきたいと思っています。

その他有機的な要素としては、植栽があるかと思っています。地窓のところから積極的に緑を見ていただきたいというのもありますし、樹高も少し高いものを加えるなどしながら、緑の奥に建物があるという雰囲気にな付けるように工夫していきたいと思っています。

委員 ぜひお願いします。また、手すりについて、溶融亜鉛メッキのままになるのでしょうか。ベージュっぽい種類を上から被せるなどして少しでも工夫していただくと、地域性のある景観との連続性がでてくるのではないかと思います。少しでもベージュっぽい、あるいはグリーンっぽい色が良いと思います。

設計者 上から塗装すると塗り替えが必要になることや、劣化感も気になるので、塗装は難しいです。溶融亜鉛メッキのままで、もう少し明るい色にするなどは可能かと思いますので、ご意見を参考にしながら最終選定させていただきます。

委員 今回の計画地周辺は、雲雀丘の中でも特に緑の景観が厚く、文化的に趣のある緑のあるエリアです。また、今回計画は、既存の高碕記念館の庭園と一体的な庭園として捉えるかたちになり、現状では、周辺の方や市民としても誇りとなるような景観を形成していただいている場所だと思います。

今回の計画建物のデザインについては、無機質なデザインと周辺環境との調和が議論になっているかと思います。博物館として目立たせたいというようなご説明もありましたが、建物だけが目を引くというのは、むしろ受け入れがたいところもあるのではないのでしょうか。植栽や外構計画で、周辺環境との調和につながるのではという事項を何点かお伝えさせていただきたいと思っています。

まず、既存の緑を復旧していただくのは、非常にありがたいと思っています。ただ、今回の計画建物の外構部分については、今回の計画内容では、周辺から分断された連続性のない計画になっているのではないのでしょうか。樹種や植栽の仕立て方、配置の仕方などが、敷地や既存の高碕記念館の庭園、周辺の屋敷林からも大きく異なっています。

ヴォーリズ建築の庭園は、手前に高木を配し、奥に建物があるのが基本で、その関係性で景観の骨格を作るというデザインルールです。また、ベースとしては、和風に仕立てられた在来造園木を使い、その中にワシントンヤシなどが非常にシンボリックなものとして使われます。これは、地域の特性とも一致

するものです。また、高低差があるまちなみですので、花崗岩の御影石の石積擁壁も重要です。

ドライロックガーデンやカラーリーフガーデンについて、色々と珍しいものを見せるという意図は理解しますが、これを道路際から見せるのはまた少し違うように思います。そういったコンセプトも重要ですし、博物館として教育普及的にも大切だとは思いますが、道路から見える範囲では、先ほど申し上げたようなヴォーリズ建築の庭園や周辺の屋敷林の考え方に則って、調和を重んじて歴史・文化を継承いただきたいと考えます。

また、今回、特に見え方として意識すべきなのは、東側からの道路からの視点だと思います。既存のカイズカイブキや生垣との連続性が途切れているのは良くないです。植栽帯がありますが、幅はどれぐらいでしょうか。

設計者

奥行きは、1 m程度です。

委員

ありがとうございます。既存擁壁との取り合いやアプローチの処理を行いながら、植栽帯をどうにか設けていただいたということかとは思いますが、いくつもお伝えさせてください。

まず、今回新たに設けられる植栽帯の考え方についてです。

ドライロックガーデンは、コンセプトとしては理解できるのですが、ここは最も面的に樹木を植えられる可能性のあるスペースですから、周辺の連続性から考えると、常緑で在来性が強く、ボリュームのでる緑の葉の濃い樹種が相応しいと思います。例えばクスノキ、アラカシ、シラカシなどが良いかと思います。ある程度高さがあり、ボリュームのでる緑を建物の際に置くだけで、印象が締まります。

雑木風ガーデンは、基本的には既存の樹種が良いです。低木であれば、ヒラドツツジ、ツゲなどの和風の刈り込み、もし中木が植えられるのであれば、ナンテンやシャシャンボが合うのではないのでしょうか。小スペースではありますが、既存の樹種などを立体的に配していただくと調和が取れると思います。

また、カラーリーフガーデンについても同じ考え方でいいかと思います。特に地窓から見えるという植栽については、現状では、かなり明るい黄色で樹形が暴れるレボリューションゴールドを計画されています。これはメンテナンスフリーで繁茂するということで最近よく使われる樹種ですが、今回の計画では、完全に周辺から浮いてしまいます。せっかく地窓から周辺を眺めた時に、手前に黄色い葉っぱがあると、景観を損ねると思います。植栽帯に1 mの幅があれば、マツが植えられます。高木のマツの枝ぶりあるいは幹がちょうどフレーム効果となって、風景を眺める時の切り取りになるので、非常に良いかと思

います。複数本植えられるのであれば、ランダムに配することで自然的な雰囲気ができます。足元にはローズマリーを計画されていますが、こちらも先ほど申し上げたように丸く仕立てたヒラドツツジ、ツゲなどが自然石と交互に見え隠れするようなかたちが、この地域の庭園の基本的な考え方だと思います。このあたりを採用していただくと、景観上ぐんと良くなると思いますので、ご検討ください。

また、難しいかもしれませんが、一度検討いただきたいのは、先ほどの杉板型枠のコンクリート打ち放し部分についてです。この部分は、周辺との調和の観点で言うと、どうしても無機質で異質なものとして見えてしまうと思います。テクスチャーとして、杉板の雰囲気は出ますが、この地域の擁壁は、花崗岩や御影の自然石の雰囲気が特徴です。本来であれば、自然石の石積が一番良いのですが、施工が難しいということであれば、花崗岩の雑石の石貼りなどを検討いただきたいです。今回の計画では、道路面からはこの部分がまず目に入り、景観として非常に重要になってきますので、ぜひご検討ください。

先ほど意見のあった碎石についても、御影風の温かい色味を検討いただけると良いと思います。擁壁と建物の前に豊かな高木があり、その際を常緑の緑で締める、というポイントを押さえるだけで、非常に良い景観になります。宝塚市を代表するような良い建物になれば良いなと思いますので、是非ご検討をお願いします。

設計者

ありがとうございます。植栽に関して具体的なアドバイスをいただきましたので、参考にさせていただきます。

擁壁に関して石貼りのご提案をいただきましたが、現在は道路境界からの距離などが非常に厳しいので難しい印象ですが、一度検討いたします。

また、一部既存の石垣も保全しますので、全体に杉板型枠のコンクリート打ち放しがくるわけではありません。植栽もありますし、手すりに隠れる部分もありますので、コンクリートの壁が正面に強く出てくる印象は、あまりないのではと考えています。

委員

コンクリート打ち放しの部分については、下垂型の植物で壁面を覆うことも検討できると思います。周辺環境を考慮し、ヘデラなどより、スイカズラなど和風の設えに合う種類が良いです。また、エレベーター部分の壁面についてですが、石貼りにすることは難しいでしょうか。石貼りにしていただけると、全体の連続性に大きく寄与します。景観は歩行者目線が非常に大切で、地下1階部分の処理が重要ですので、ご検討いただければ幸いです。

委 員	既存の高碕記念館と博物館は一体のエリアと考えられますが、今回の計画は既存とも周辺環境とも馴染んでいるとは言い難いと思います。その上で今回計画を進められるということであれば、既存の高碕記念館から見たときに、新しい風景をつくる、新たな価値をつくる、という観点が必要かもしれません。高碕氏が守ろうとした景観が、こんな風に新しく良いものになるのだという価値の説明があるといいのかもしれませんが。 また、既存の高碕記念館の南側アプローチを活用できれば、東側道路に面する階段を大きく確保する必要もなくなるのではないかと感じましたが、検討の余地はありますか。そうすることで、よりこの建物をこのサイトに埋め込めるような表現の可能性を感じます。
設計者	ありがとうございます。新しい価値の説明という点は、今後しっかり考えていきたいと思います。既存の高碕記念館と博物館との関係について具体的に申し上げますと、シンプルな屋根に関しては、記念館側のマンサード屋根に呼応する形状としています。外観を決める上で、既存の高碕記念館の特徴的なマンサード屋根に合わせて記念館側の立面を構成しており、そこからハイサイドの光を入れる形にしています。記念館側から見ると、似た形の屋根が見え、その先に伊丹空港方面が見えるという、建物の形状的な配慮をしています。 東側の階段については、建築基準法の規定によるものなので、難しいです。
委 員	マツについてです。既存の高碕記念館にはマツが多数あります。連続性という点でも、マツを入れてもらおうと景観が繋がっていきませんが、いかがでしょうか。
設計者	マツについては、ご意見を参考に検討させていただきます。
委 員	ぜひお願いします。あまり単調な配置にするのではなく、なだらかな形で並びを考えていただけたらと思います。そうすることで、マツ越しに眺める非常に良い風景になるのではないかと思います。 また、既存の高碕記念館の石積擁壁が汚れています。地域性が感じられる良いものですので、今回、新築に合わせて洗いをかけたりしていただくと良いのではないのでしょうか。
事業者	丁寧な維持管理は重要だと思いますので、検討させていただきます。
会 長	ありがとうございます。宝塚市にとって非常に大事な地域であり、高碕記念

館の隣でもありますので、熱の入った議論になったかと思います。周辺との関係や、ひとの視点で考える、という景観の本質を考慮しながら、検討を進めていただきたいと思います。

また、先ほどバリアフリーの話がありましたが、機能だけでなく、人がそこに行きたくなるようなアプローチになっているのか、というユニバーサルデザインのような考え方が大切だと思います。ぜひ、迎えられていると感じられる、行きたくなるような良いものを作っていただければと思います。

会 長

それでは、以上をもちまして議題1の審議は終了し、本日の景観審議会デザイン協議部会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。